

挑戦の先に

「まさか自分がというのが、正直な気持ちでした。実際に自分の作品が札幌市民ギャラリーに展示されていたり、周りの方に祝っていたりして、ようやく実感が湧いてきたところですよ」と受賞の喜びを語る中澤さん。

定年退職を迎えたことであまり時間を油絵の創作にあててきたという中澤さんは、平成27年、全道展に初応募。入選という結果にうれしさを感じつつも、さらなる高みを目指し、毎年応募を続け、5年目となった今年、目標としていた全道美術協会賞を手にするこ

とができたといいます。「使用する画材だけでかなりの負担になってしまうので、私の場合は、ホームセンターでベニア板と木材を買ってきて、絵を描くキャンバスを作るところからはじめます」と創作活動を笑顔で教えてくれた中澤さん。

「自宅の車庫をアトリエにして、これまで130号（横1・94㎝、縦1・62㎝）というサイズの作品を多く描いてきました。今回の受賞作品ははるかに大きい200号（横2・59㎝、縦1・94㎝）。知り合いが描いた作品のスケールの大きさに、



▲『第74回全道展』で全道美術協会賞に選ばれた中澤さんの作品『Pipe · Work · ten』

私も描いてみたいと初めての挑戦でした。実際の大きさよりも何倍も広く感じ、完成することができると不安なときもありました。完成までに約8カ月、その分、出来上がったときの喜びは、ひとしおでした」と振り返ります。

無限に広がる世界

「これからは、全道美術協会賞受賞者の作品として見られ、光栄であると同時に、重圧もあります」という中澤さんは、すでに新たな作品に取り組んでいます。「芸術に答えはありません。可能な限り創作活動を続け、違う世界観の作品にも取り組んでいきたい」と意気込みを語る中澤さんは、今日もキャンバスに向かい、新たな世界の創出に挑戦し続けます。



KIRARI

なか ざわ ふみ たか
中澤 文隆さん（緑町）

北海道で開催される多くの美術公募展の中でも有数の歴史と規模を誇る『全道展』。令和元年6月の『第74回全道展』において、中澤文隆さんは、最高賞となる全道美術協会賞に輝きました。今号では、新たな作品に挑戦しつづける中澤文隆さんに、創作活動に対する思いについて伺いました。

終わりのない創作活動 に向かう毎日



昭和26年、室蘭市生まれ。68歳。

結婚後、登別市に転入。幼少期から水彩画を始め、20代で油絵に初挑戦。子どもの頃に身近にあった『工場』や『パイプ管』を題材にした作品を多く手掛ける。室蘭美術協会事務局次長。